

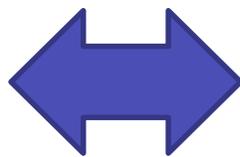
検討の解析条件

～検討の方法～

- 土地区画整理事業実施前（洪水浸水想定区域図作成時）と土地区画整理事業実施後のシミュレーション結果を比較することで治水への影響を検討

土地区画整理事業実施前
（洪水浸水想定区域図作成時）

シミュレーション結果



比較

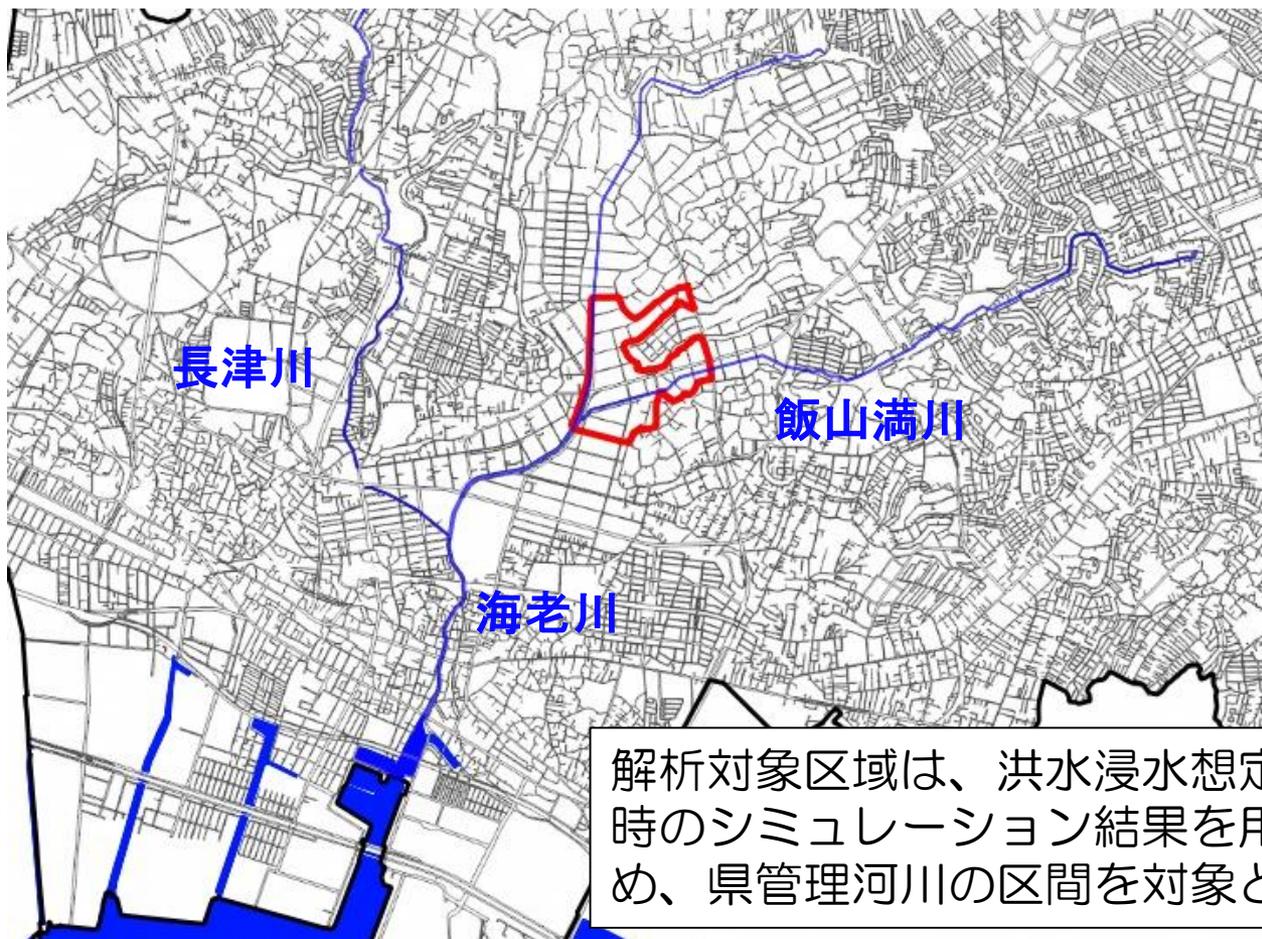
土地区画整理事業実施後

シミュレーション結果

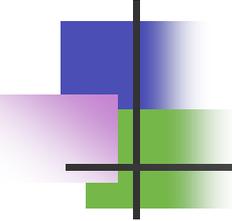
※ 土地区画整理事業実施後の状況を加味

検討の解析条件

～対象区域～



解析対象区域は、洪水浸水想定区域図作成時のシミュレーション結果を用いているため、県管理河川の区間を対象としている

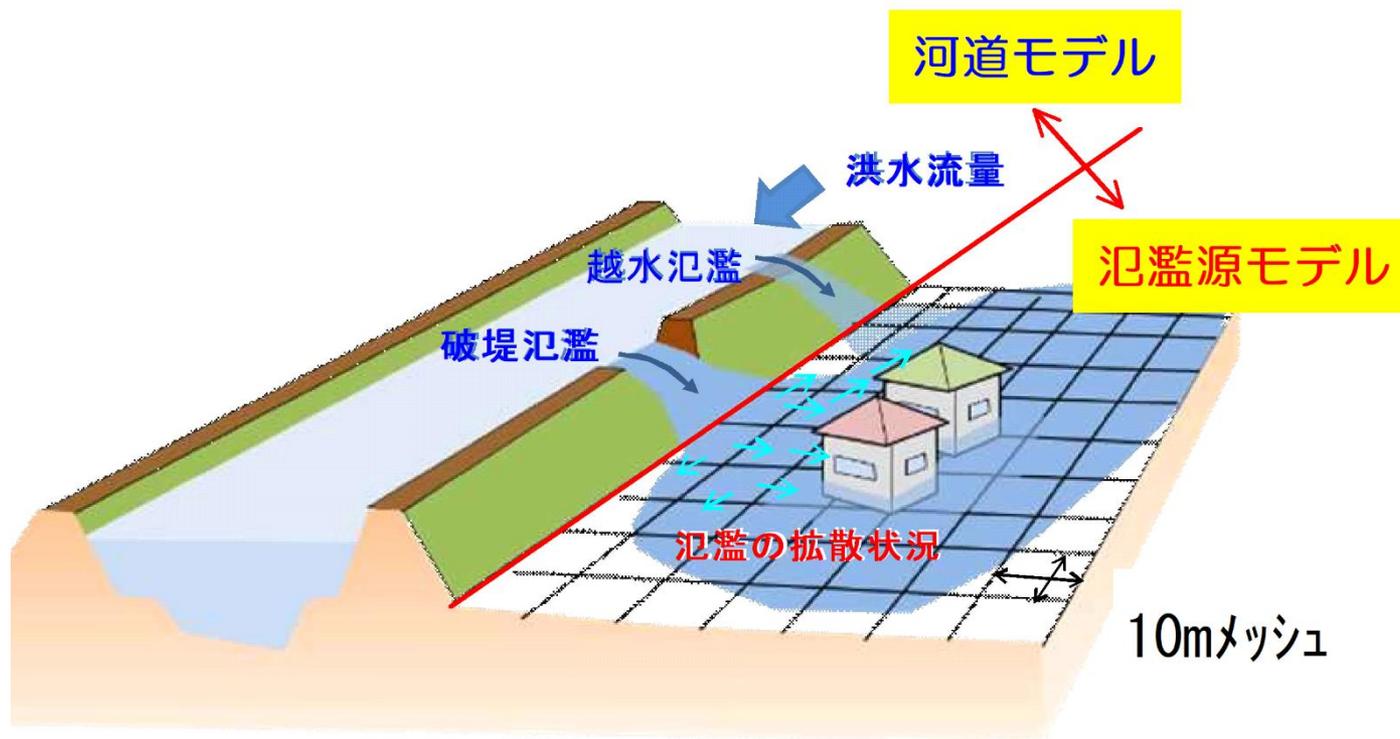


検討の解析条件

～降雨規模～

- 今回検討する降雨規模は以下3パターンでシミュレーションを実施
 - 高頻度の降雨（年超過確率1/10いわゆる10年に一度の降雨）
海老川流域の24時間総雨量163mm
海老川水系河川整備計画の目標とする降雨
 - 想定最大規模の降雨
（年超過確率1/1,000いわゆる1000年に一度の降雨量を上回る降雨）
海老川流域の9時間総雨量516mm
水防法に基づく想定し得る最大規模の降雨
 - 計画規模の降雨（年超過確率1/50いわゆる50年に一度の降雨）
海老川流域の9時間総雨量221mm
海老川水系河川整備基本方針の目標とする降雨

検討の解析条件 ～解析の方法～



検討の解析条件

～土地区画整理事業実施後～

- 洪水浸水想定区域図作成時のシミュレーション条件に以下条件を加味し設定
 - 土地区画整理事業の宅地造成や調整池等を反映
 - 土地区画整理事業によるまちづくりが概ね完了する頃までに見込まれる河川の整備状況を反映（海老川下流部河床掘削・海老川調節池暫定掘削）